

第3回 SE & サキドリ校内研修

CHALLENGES

課題の明確化



授業づくりと児童の意欲に関する課題（アイスブレイクの気づきから）

- ・授業において、児童に伝えたい内容が文章中心で長くなってしまい、活動のイメージが十分に持てていないという課題があります。
- ・ルールが不明確なことで、児童が試行錯誤したり、ワクワクしながら課題解決に取り組んだりする場面が不足しています
- ・学習の目的が児童にとって不明確なまま授業が進むことがあり、『振り返り』が形骸化している側面が見られます。言葉だけでなく図や実物を活用し、児童が直感的に理解できるような教材提示の工夫が求められています。

ACTIONS

具体的な取組



アイスブレイク・ワークショップを通じた「チーム力の向上」と「授業の疑似体験」

- ・アイスブレイクを取り入れ、学年や経験年数に関わらず意見を出し合える関係性を構築しました。
- ・ワークショップを通じ、「ワクワクする課題設定」や「ルールの明確化」が児童の試行錯誤を引き出すために不可欠であることを、教員自身が体験的に学びました。

RESULTS

変化・成果

- ・ワークショップでの気づきを通じ、「ワクワクする課題設定」や「ルールの明確化」が児童の思考を促す鍵であることが再認識されました。
- ・「文章が長くて伝わらない」「言葉ばかりでイメージが湧かない」といった反省から、図や実物を活用した教材提示や、指示を簡潔にする（例：10個ではなく3個に絞る）といった、具体的な指導の工夫が意識されるようになりました



IMPACT

チームへの波及



実意識と組織の変化：

一人の負担から

「チームでの共有」へ

「一人で考える」授業づくりから「みんなでつくる」体制への移行が進んでいます。経験年数に関わらず意見を出し合える場面が増え、特に新任の先生も取り組みやすい環境が整ってきました。

NEXT

今後・再現性

今後は、実践事例を整理し、誰でも同じように取り組める形へと共通化していきます。「まずは一つやってみる」「無理なく続ける」ことを大切にしながら、情報活用能力の育成と業務の効率化を両立していきましょう。